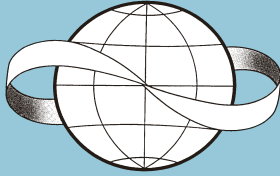


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第66号

商標登録第4882482号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
 東京都東村山市久米川町1-16-18
 TEL: 042-395-9788
 FAX: 042-395-9787

地域静脈産業各地で衰退

過日、小平市のペットボトルの品質検査が、宇都宮のジャパンテックペットボトル再生工場で行われた。(詳細は、今号九頁に掲載)当日先方の責任者からの説明によると、「PETからPETに再生する技術を確認し製品化している。この製品を作れるのは日本では当社しかない」と話していた。古紙と同じく元の製品に蘇える、素晴らしい技術開発である。

しかし、再生するPET原料を行政機関から購入するには入札で勝たなくてはならず、安定的に調達する事は難しくなっていると、自治体で回収される再生資源物は、競争入札になる事が多いが、リサイクル事業を守り育てるには守らなければならない重要な要素があるはずだ。当然、バージン原料価格から計算された適正の価格で取引されるべきで、それを無視した価格ではないが、加えて、我が国にとって理想的な資源化はどうかあるべきかを入札条件に加える必要があるのではと痛感した。資源小国である我が国の資源循環事業には、持続可能な円運動を理想とした長い歴史があった。その円運動を可能にするために先

人は、物の作り方から処分の仕方までルールやルートを守ってきた。しかし、膨張し続ける消費生活の変化は国内循環システムだけでは処理不能となり回収した再生資源の輸出が活発になってきた。

古紙も鉄スクラップも非鉄金属もそしてペットBを含む廃プラ類などもアジア各国に輸出されている。だが、輸出事業には相手国の事情や世界経済の急変などで大きなリスクを負うことが多い。

昨年の春、古布や中古衣料の価格が、輸出停止騒ぎで暴落した。東京都管内の入札を行っている市、区の価格も二〇円以上だったものが一円以下になっている。入札辞退も起きて、引き取り先の決定に難儀した自治体もある。

繊細な緻密な分別加工をして生業としていた国内の古布加工問屋は、輸出業者の無秩序な入札競争に巻き込まれて、その従事者も設備も激減した。リーマン危機時の資源物暴落と古紙入札拒否などの混乱も記憶に新しい。

行政委託の古紙回収では、こんな事例もある。都内のある区では古紙回収を入札にしている。落札業者が、運送業者や一般廃棄物業者、古紙業者と毎年コロコロ変わる。これでリサイクルに対する誇りや

責任感、安全な作業意識など育つのだろうか。自分達の住む地域、環境を守ろう、リサイクルに対し市民の意識を高めてもらおう、などの豊かな心は育たないと思う。零細ながら長年地域の循環社会に貢献してきた回収事業者の、加工技術もヤードも設備も車両も地元雇用も流通ルートも消えた。

市民の協力や行政コストで得られる再生資源物はその流通経路や用途を吟味し、国内での円運動を最優先して頂きたい。またその理念を守り続けてきた地域の業者が生きて行ける制度を守って頂きたい。当組合では、各市の環境行事に必ず参加し、本機関紙でもリサイクルの重要性を訴えている。組合員、回収作業従事者には安全講習会への参加を義務づけている。市民や行政からの要望があれば、数世帯の小規模な集団回収も必ず対応している。そして大きなマンションだけを食い荒らす外部の大手業者にいつも苦しんでいるのが実情だ。資源相場によって収益が上がらなければ簡単に撤退するのが大手のやり方である。市民や行政の方々には、収集から最終リサイクルまで地域や市民にとって何が本当に正しいのか、我々地域業者と議論する場を設けて頂きたい。(吉浦)

リサイクル適性(A)

（公財）古紙再生促進センターの岡村でございます。本年六月に専務理事を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。

東多摩再資源化事業協同組合の皆様には、古紙の回収ならびに古紙品質の維持向上には多大なるご尽力を賜っておりますこと、まづはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

直言拝聴

日本の古紙リサイクルの現状と古紙センターの役割



公益財団法人古紙再生促進センター
専務理事 岡村 光二様

日本の紙リサイクルの状況は、近年の構造的な紙・板紙の需要減少に伴う古紙の発生減や古紙の国際化進展に伴い、様々な課題が生じています。この度、貴組合広報誌「ヴェーナス通信」の「直言拝聴」への寄稿ご依頼を受けましたので、以下、日本の紙リサイクルが置かれている状況ならびに取り組むべき課題について考えていることをお話しさせていただきます。

（日本の紙リサイクルの現状）
ご承知のように資源の少ない我が国におきましては、古くは奈良・平安時代にまで遡りますが、古紙は貴重な資源ということで紙・板紙の原料として回収・利用されてきました。

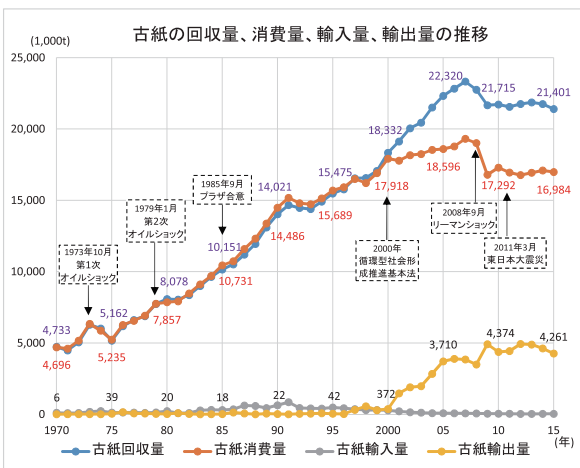
それが近年、一九九〇年代後半頃より、環境問題への高まりから、「森林資源の維持」、「省資源」や「ごみの減量」といった社会的要請を背景に、法規制の整備や行政による積極的な回収への取り組みが進み、新聞・段ボール・雑誌古紙や産業古紙といった既存の古紙の回収増に加え、これまでは“廃棄物”として焼却処理されていた様々な紙類の回収が図られる一方、製紙メーカーでの設備導入や利用技術の向上により古紙の利用拡大

が図られてきました。

しかしながら、回収量が利用量を上回るという量的なギャップ（グラフ参照）や利用が困難な低品質の古紙も回収され品質面でのミスマッチなどから、紙のリサイクルシステム維持に向けては、古紙の輸出が必要不可欠という現在の紙のリサイクルシステムが確立されました。これに伴い、古紙の国内リサイクルと国際リサイクルという二つの輪をいかに共存していくかという難しい課題も生じることとなりました。

また、こうした回収形態の多様化や回収対象古紙の拡大など複雑化した紙のリサイクルシステムは、当センターが中心となり制定した「主要古紙標準品質規格」の理解不足や周知の不徹底など様々な背景から、先輩の皆様方の多大なるご尽力、日本の高いリサイクルへのボランティア意識による分別排出などにより築き上げてきた世界に誇る日本の古紙の品質低下、古紙市況や安定調達の不安定化などを招き、古紙利用を阻害する要因となってきました。

因みに、日本の古紙品質に関しては、最近では輸出先からも、品質改善の声が大きくなってきております。



（日本の古紙回収・利用状況）
昨年、国内での紙・板紙消費量が二七百万トに対し、二一百万トの古紙が回収されました。一七百万トが国内で紙・板紙の原料として、残りの四百万トは、海外に輸出されました。回収率は八一・三％、利用率は六四・三％で、ともに世界的にトップクラスです。

当センターが設立された昭和四九年当時の古紙回収率は四一％、古紙利用率は三六％で、この四〇年余で、それぞれ倍近く向上しています。因みに、私の会社人生は、翌年の昭和五〇年に当時の主要原料の木材チップの調達からスタ

ートしました。その後、古紙の調達に移ったわけですが、入社時の利用率三六%が現在は六四%強ということ、古紙と木材チップの比率が逆転し原料の主役が入れ替わったわけで、両方の原料の調達に携わったものとしては真に感慨深いものがあります。

勿論、ここに至るには、製紙業界、古紙業界、回収業界および消費者、

行政、関係業界の多大なる努力に加え、当センターの果たしてきた役割も大きなものがあつたと思えます。

(古紙再生促進センターの役割)

当センターは、経済産業省の支援のもと需給両業界が共同して、持続的な紙のリサイクルシステム構築に取り組むという、他国あるいは国内の他業界では見られない得難い組織と思っております。

消費者、地方自治体や関係業界と連携の上、様々な課題に取り組み、製紙原料の安定的供給確保、資源の有効利用や廃棄物の減量化による循環型社会の形成を目的としており、貴業界からも、当センターの理事として、また事業遂行に重要な役割を担っている業務委員会など各種委員会の委員として

参画頂いております。

当センターが実施する事業は大きくは次の五つで、概略ご紹介いたします。

① 古紙品質安定事業

古紙品質の維持向上に向け、製紙工場搬入後の古紙の開梱調査による品質確認、製紙工場での古紙由来のトラブルの情報収集および関係者へ情報発信。また、昇華転写紙・感熱発泡紙・臭い・油染み等、重大な製品品質トラブルの原因となつている禁忌品を選び出し、個別対策を実施してまいります。

② 広報事業

紙リサイクルの啓発活動や情報発信ですが、現在は、特に分別排出に力を注いでいます。

具体的には、地方自治体、関係者との紙リサイクル意見交換会や研修会、小学校での出前事業等を実施し、分別と禁忌品のご理解、除去の徹底等をお願いしています。また、数年前よりは作文・ポスターを募集、優秀作品の受賞者を表彰する全国の小中学生紙リサイクルコンテストを実施しています。

③ 調査研究事業

定量的な紙のリサイクル実態把握のための統計の整備および未利用古紙資源化調査、リサイクル対応型商品開発支援等により紙ごみの資源化に努めています。また、海外古紙市場調査を行い、海外状況の把握にも努めています。

④ 紙の資源リサイクル安定化対策事業

世界に誇る日本の紙リサイクルシステム維持に向け、古紙余剰時の緊急対策として古紙備蓄や関連の調査等を実施しています。

古紙備蓄については、最近では平成二〇年のリーマンショックにより短期的に国内外の古紙消費が落ち込み、古紙の余剰発生が懸念された折に実施し、リサイクルシステムの維持を図りました。

⑤ その他事業

全国各地域での回収利用促進事業のサポートを行っております。

(新たな古紙利用率目標達成に向けてー古紙の品質維持向上)

本年、新たな古紙利用率目標「二〇二〇年度六五%」が策定されま

した。既に高水準の利用率を更に一%近くアップさせようというところで、板紙分野の利用率がほぼ限界に近いことから、達成には使用する古紙の品質要求がより高い紙分野の利用率のアップが求められます。

しかしながら、現実的には冒頭述べましたように複雑化した紙リサイクルシステムの中、逆に古紙の品質は低下傾向にあるというのが実態であり、加えて構造的な古紙の発生減、中でも新聞古紙など洋紙向け古紙の発生減が見られる中、目標達成には、従来にも増して古紙品質の向上や更なる良品質の古紙の掘り起しが必要となります。

古紙の品質向上、良品質の古紙確保は初期分別、その為には消費者、事業者や地方自治体への情報発信・啓発活動が何よりも重要であると思っております。

つきましては、今後、当センターとしましては、関連する情報発信や意見交換会など、皆様とものと連携を深め、禁忌品の周知や分別排出の徹底に努めていきたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

目資連 第四回 全国大会 大阪大会

第四回日資連（日本再生資源事業協同組合連合会）全国大会大阪大会は七月二日（土）大阪上本町にあるシェラトン都ホテル大阪にて、全国から二〇〇名近い会員が参加し開催された。

初めに大阪の福田副理事長が力強く開会を宣言、先般の熊本地震で亡くなられた方に対し全員で黙とう、続いて大阪山本理事長が歓迎の挨拶、そして日資連飯田会長から六月に行われた通常総会で再任されたこと、そして熊本地震に対し、全国日資連会員から義援金八八六万四〇〇七円が寄せられた事が報告された。そして昨今の我々業界を取り巻く環境は厳しい状況となっております、全国の会員の



挨拶する日資連・飯田会長

皆様にはより一層のご支援、ご協力をお願いすると挨拶された。

それを受け九州地区担当副会長である熊本の西原理理事長から熊本地震の様子と地震以降の現地の状況が報告され、義援金に対する謝意が述べられた。

続いて来賓のご挨拶、ご祝辞、祝電が披露された後、第四十四回通常総会報告、大会決議の宣言、そして、次期大会開催地は島根県と発表され松江広域再生資源協同組合上野理事長の挨拶で大会は終了した。

第二部の記念講演では、イベント管理士、(株)オフィスマイ代表取締役 田中 健氏が講演された。一九五〇年、映画館を経営する家に生まれ、大学在学中にアミ音楽工房プロダクションを設立、有名歌手のステージ製作・興行・学園祭や地方の祭りなどのプロデュースを手掛けたこと、とりわけ、キャロルのイベントでメンバーであった矢沢永吉が電車で寝過ごし、イベントに間に合なかったことで、必死の思いで会場に来ていた数人を集め代役を立てようとしたエピソードが語られた。

また田中氏のもう一つの顔が榎宜（神職の総称、神社の宮司：権宮司を補佐する職）だそうであ



講演する田中 健氏

る。そのきっかけは一九八五年の阪神・淡路大震災で西宮にあった二軒の映画館が全壊、暗く悲しみに包まれた街に何か希望の光が灯せないかと被災直後からボランティアで映画の上映を始め、映写機を持って各地を巡回、そして被災一年目以前から祭りのプロデュースで縁があった西宮の越木岩神社社務所でのご奉仕を機に神職の資格を取得し、多方面現在でご活躍されているとのことでした。

第三部懇親会では、二つのアトラクションがあり、初めに守口市地車連絡協議会による「たんじり」のお囃子が披露され、笛や太鼓が徐々に盛り上がる様は一種のトランス状態になるのかな？とも感じられた。もう一つのアトラクションは梅花女子大学チアリーディングによるパフォーマンスで、彼女たちの元気のいい声と笑顔、そし

て次々と体が空中に高く差し上げられ、飛ぶように落下する体を受け止める演技は圧巻で、最後は見物している我々男性陣が連れ出され、彼女たちに担ぎ上げられることとなり、会場は大いに盛り上がり、懇親会は終了となった。



大柄な男性陣も軽々と持ち上げられました

来年の島根での再会を約し、日資連大阪大会は盛会のうちに閉会となった。（小畑）

日資連のリサイクル化証明書を ご存じですか？



適正なルートでリサイクルされたことを証明するもので、当組合員は全社日資連の再生資源回収事業者認定を受けており、リサイクル化証明書を発行できます。事業系の資源物の回収は当組合員にお任せ下さい。

**これからも、継続的に
支援活動を行います！**

前号で、五月に熊本地震の復興支援活動を行ったことを報告したが、六月五〜七日、第二回の熊本復興支援ボランティアに参加した。日資連青年部で全国の部員に呼びかけたところ、関東、奈良、沖縄から部員が集まった。今回は、特に地震の被害の大きかった益城町の災害支援センターに行き、ボランティア登録をしたのだが、車のナンバーから全国各地の方々がいらしていること、何日間も継続して活動されている方が半分近くいること、二〇〇名の募集枠を超える方が集まっていたことに本当に頭が下がる思いだった。

担当したのは、益城町の中心部にほど近い平屋の住宅で、地震によって屋根が損傷し雨漏りしたことで天井や床が抜け、家財道具も濡れてしまっていた。家主の方の気持ちに寄り添いながら、保管しておく物、廃棄する物を運び出し、選別をしたり、倒れた家具を起こしたりといった作業を行った。依頼主からは本当に心からの感謝のお言葉を頂き、こちらも胸がいっ



日資連青年部ボランティア隊

ぱいになった。翌日、日資連の飯田会長、高野委員長と合流し、全国から募集した義援金を熊本の西原副会長に直接手渡しするべく、西原副会長に会社にお邪魔した。地震発生直後の状況や震災ごみの処理の状況などを伺った。当組合も組合員一四社全員から義援金にご協力頂いていたので、直接お渡しできて本当によかったと思う。

熊本の市街は五月の訪問時より復旧が進み、ステーションにあふれていた震災ごみもきれいになっていた。ただ、熊本地震が発生したのはちょうどゴールデンウィーク直前のことで、その後のホテルや旅行等のキャンセルが九州全体で七五万人もあったそうだ。海外からも人気のある観光地熊本の経済に大きな打撃となったことは言

うまでもない。ボランティアももちろん素晴らしいことだが、熊本県産の物を購入したり、行ける方は実際に訪問して観光したり、買い物したりすることも地域経済の復興に大きく貢献できる大事なことはないかと強く感じた。今回参加できなかった青年部員も誘って、再度熊本に訪問し、募集があればボランティア活動しつつ、熊本城や街の復旧状況を視察したいと考えている。(TKO)

**吉浦理事長が東資協の理事長
を退任されました**

平成二八年五月二一日(土)、東京ガーデンパレスホテルにて当組合の上部団体でもある、東京都資源回収事業協同組合の第六七回通常総会が開催されました。今年役員改選期にあたり、当

組合の理事長でもある吉浦高志理



娘から父へ記念の花
束贈呈

理事長が四年の任期を終え、第一七代理事を退任される運びとなりました。

任期中は「持ち去り問題」を始めとする様々な難局の中、大事な舵取りをされてきた吉浦理事長大変お疲れ様でした。

当組合はその吉浦理事長の慰労を兼ね、八月九日に所沢パークホテルにて退任慰労会を行いました。



吉浦理事長御礼の挨拶
次のステージでの活躍に期待します！

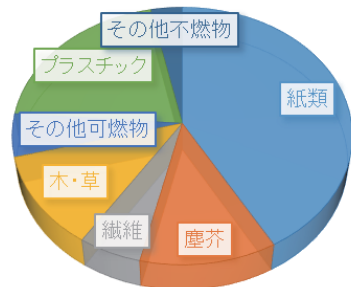
会の中では余興も兼ねた青年部作成のビデオ上映があり、長年の吉浦理事長のご活躍が写し出されました。映像にもありましたが我が業界はまだまだ問題が山積されています。東資協理事長はご退任になりましたが、関資連、日資連でのご活躍、何よりも我々の地元での舵取りを今後ともよろしくお願

い致します。
(福田)

雑がみのリサイクルを推進しましょう!

皆様は、可燃ごみにどのくらい紙類が混入しているかご存じですか?可燃ごみの組成分析をすると、乾ベース(乾燥した状態)で40%程度紙類が混じっているそうです。もっとも、この中には製紙原料としてリサイクル出来ない紙類も含まれておりますので、約15~20%程度、リサイクルできる雑紙類が可燃ごみになっているのではないかと思います。これはもったいない!まだまだリサイクルできる紙があることを皆様知って頂き、更なるごみ減量を進めるとともに古紙のリサイクル率向上に努めていきたいと思っております。

平成26年度多摩地域の可燃ごみ組成分析 平均値(乾ベース)



①まだまだリサイクルできる紙類ってどんなもの?

可燃ごみに多く含まれているリサイクルできる紙類は、例えばお菓子などの空箱、トイレトーパーやラップの芯、封筒やはがき、ダイレクトメール(※ビニール引きのしてある圧着はがきは除きます)、包装紙、名刺、投げ込みチラシ、メモ用紙、カレンダーなどがあります。また、牛乳パックなども洗って開くのが面倒なので、そのまま可燃ごみに出されているケースが多いようです。牛乳パックは面倒でも洗って開いて束ねてリサイクルしましょう!



雑がみ類の一例

②リサイクルできない紙類は?

逆に、可燃ごみに含まれているリサイクルできない紙類は、衛生紙(ティッシュなど)、紙おむつ(未使用だとしてもNGです)、感熱紙のレシート、磁気情報の入っている紙(切符など)、印画紙、裏カーボン、ノンカーボン紙、臭いのついた紙(洗剤や線香の箱)などです。その他、禁忌品とされている紙類は混ぜないようにしてください。



リサイクルできない紙の例

ちょっとフレイク ???摩訶不思議な紙マークのお話???

それでは問題です!紙のマークがついていても、製紙原料としてはリサイクルできない紙がある、○か×か?

…そう、答えは○、リサイクルできない紙があるのです。このマークは、容器包装リサイクル法に基づいて紙製容器包装につけることが義務づけられている識別マークなのですが、紙製品であることを表しているもので、製紙原料としてリサイクルできるものを表しているわけではなく、固形燃料等にサーマルリサイクルされる物も含まれているのです。非常に紛らわしいですね!

③雑がみはどうやって出せばよい?

古紙は基本的にはひもで縛って出してくださいとお願いしています。ですが、このような雑紙類は大きさもまちまちで、小さくて束ねられない物もあります。ですので、お買い物の時などにもらう紙袋などに入れて出すのがベストです。また、雑がみ類は、雑誌と一緒にリサイクルしますので、混ぜてもかまいませんが、新聞紙や段ボールとは別に分けて出してください。



④雑がみ回収袋を活用して下さい!

当組合では、各市でご要望の多い雑がみ回収袋を試作いたしました。クラフト紙(茶紙袋)で作った袋だとコストも安いのですが、反面リサイクルしづらいという欠点もあります。そこで、リサイクルしやすい紙で、持ち運びに便利な手提げ付き、雑がみの具体例をイラスト入りで分かりやすく明記しました。まだまだコストの面で課題があり、多くの皆様に配布することは出来ませんが、将来的には各市と協力して大量生産できればいいと考えております。まずは、いろいろなイベントにおいて、ヴィーナス通信やチラシなどの資料を入れて配布する予定です。今後の各市イベントのスケジュールを下記にご案内いたします。お越しの際は、是非当組合ブースにお立ち寄り下さい。



今後の各市イベントスケジュール

- ① 9月10日(土) こだいら環境フェスティバル
AM10:00~PM2:00 @小平市立中央公園他
・まだまだ使える育児用品、おもちゃ、ぬいぐるみなど小物雑貨類の回収
・牛乳パックの回収 ・リサイクル分別ゲーム
- ② 10月16日(日) 東村山市リサイクルフェア
AM10:00~PM1:00 @秋水園リサイクルセンター
・まだまだ使える育児用品、おもちゃ、ぬいぐるみなど小物雑貨類の回収
・リサイクル分別ゲーム
- ③ 10月16日(日) 清瀬市民まつり
@清瀬駅北口けやき通り(AM10:00~なくなり次第終了)
・トイレトーパーブーメランの販売(雑がみ回収袋付き)
- ④ 11月8日(火) 小平市リサイクルきゃらばん
PM2:00~4:00 場所未定
・まだまだ使える育児用品、おもちゃ、ぬいぐるみなど小物雑貨類の回収
・牛乳パックの回収

※ご好評頂いていた牛乳パックとトイレトーパーの交換ですが、「たった6枚でトイレトーパー1個作れるくらい牛乳パックは貴重な資源です」というメッセージは十分皆様に伝わったものと判断し、順次交換イベントを終了させて頂いております。何卒ご了承下さい。

各市リサイクルイベントに 出店協力をしました

今年も各市で開催された春のリサイクルイベントに参加しました。五月の小平市ごみゼロフリーマーケット、西東京市環境フェスティバル、六月の東大和市環境市民の集い、東久留米市環境フェスティバル、七月の小平市リサイクルきやらばん、きよせ環境川まつりです。それぞれ、各行政の担当部課との長年の信頼関係の中で参加、協力をさせていただいています。

各イベントでは、まだまだ使えるおもちゃ、育児用品、ぬいぐるみ、食器類などの小物雑貨類の回収と古紙分別の相談、リサイクル分別ゲームを行いました。駄菓子ももらえるのであって、分別ゲームは相変わらずの大人気でした。



ビン・缶の混合収集を行っている自治体では、保護者の方から『こ

れは分けなくていいのよね』なんて声が上がったりしますが、やはり、子供のうちから『分ければ資源、混ぜればごみ』という言葉を教えたいと切に感じました。

小物雑貨類の回収に関しては、毎回多くの事前のご相談を頂いています。当日持っていけない、自宅に回収に来てくれないか等々。個別に回収に伺うには、どうしても回収手数料がかかってしまうので、私たちもなるべく多くの機会にこうした回収を実施したいと考えております。その他、集団資源回収の団体様や学校などでのイベント型回収には対応できませんので、担当の専務理事紺野までお気軽にご相談下さい。(柿崎)

中学生の古紙持ち去り問題 の取材を受けました

西東京市在住の中学生から夏休みの研究課題への協力依頼があり、古紙持ち去り問題に関する取材を受けました。

テレビ等でこの問題に興味を持って頂いたようですが、当初の彼の最終結論は、持ち去り業者のように無料で回収できるならもつと市民に還元できるような回収方法が取れるのではないか、というこ

とでした。これには、最初びっくりしましたが、一部マスコミがこの問題を取り上げながら、最後には元々古紙回収をしていた人たちの仕事を取られた、彼ら(持ち去り業者)の仕事も何とかしてやらなくては行けないと言ったような、これまでの流れや事情を知らないタレントの無責任な発言、どっちつかずの結末を放送しているせいもあるのではと感じました。

真実は歴史を振り返れば分かります。今から三〇年前、古紙が大暴落し、チリ紙交換業者が町から姿を消しました。一方、ごみ減量のために行政がリサイクルの推進をしていた時期でもあり、平成五年頃から各地で資源物の行政回収が始まりました。地元の資源回収業者が行政とタイアップし、今のシステムを作り上げたのです。当初は、古紙価格は低迷し、安い



古紙の持ち去り問題について
真剣にお話しさせていただきました

輸入古紙にも押されて国内では古紙が大余剰しておりました。(持ち去り業者は、昔からやっていたとありますが、この時期売れない古紙を持ち去る奇特な人はいませんでした。)我々の先輩方は本当に苦労してリサイクルの輪を回していたのです。その後、平成一四年ごろから古紙の輸出が本格的に始まり、価格も回復をして、良質の古紙類なら正常に流通するようになりました。持ち去り業者が増加したのもこの時期からです。それでも、リーマンショック後には価格が三分の一にまで大暴落したこともあり、相場にかかわらず安定的にリサイクルを継続するためには行政回収は必要なシステムです。良質の資源物だけを都合よく回収するから持ち去り業者は成り立つのであって、悪天候の日も回収に行き、たとえ段ボール一枚、雑がみ一袋でも取りに行くのは行政回収だけです。

少し難しい話になりましたが、私たちの話を聞いて彼もびっくりしており、問題の本質を理解してもらえたのかなと思います。実際古紙持ち去り問題は中々解決の糸口が見えませんが、彼のような未来ある市民からの声は今後の光明になるのではと大いに期待します。

集団資源回収団体施設 見学バスツアー

去る八月二十九日東多摩再資源協青年部主催で 施設見学バスツアーが行われた。青年部より三名、十一団体二十六名の回収団体の皆様と、株式会社資源新報社より長谷川直哉さんと公益財団法人東京都リサイクル事業協会より後藤浩成さん総勢三名が参加した。昨年十一月に組合の施設見学をお願いした特種東海エコロジー(株)(静岡県富士市)を見学させていだきました。東多摩再資源協ブランドトレットペーパー「ブーメラ」の製造をお願いしている製紙会社です。日産約一〇〇トン、一ニロールタイプのトレットペーパー約八万パック相当を生産する再生紙トレットペーパーの単一工場としてトップクラスの生産量を誇ります。

前日まで数十年ぶりとなる大型台風が関東に上陸する見込みとなり実施が危ぶまれましたが、台風の軌道がずれたため、無事実施することができました。高速道路の道中、古紙センター制作DVD「未来へつなごう紙リサイクルの輪」を見て、紙リサイクルの基礎を学

んでもらいました。高波の影響もあり東名高速が通行止めとなり、到着が遅れてしまいました。特種東海エコロジーの皆様は暖かく我々を迎えてくださいました。お昼休みに食い込んでしまったため、人が動かす工程から見学をさせていただきました。普段なかなか目にするのできない製紙工場の現場に、みなさん驚きの声をあげ食い入るように見学されていました。見学後、会議室にてDVDで会社紹介を見せていただき、質疑応答ののち見学は終了となりました。

月にとどいてしまう距離と同じほどの生産量のお話に皆さん驚いていらつしやいました。私からは、帰りのバスの中でトレットペーパー一つ作るのに原料ベースとして牛乳パック六枚で一つ作れるというお話をさせていただきました。千里の道も一歩から、塵も積もれば山となる。我々の出す一枚の古紙が新しく大きなものを作り出すということを知って頂きたかったです。

可燃ごみの中には、再生可能な古紙がまだまだあるのが現状です。今後も古紙原料の大切さを色々な形でお伝えしていきたいと思えます。此の度の見学では渡部社長様

を始め、特種東海エコロジー(株)関係者の皆様に長時間にわたり心のこもったご説明をしていただきましたこと改めて心より御礼申し上げます。(青年部 水野)



PETボトル ペール品質検査報告

八月十九日、㈱ジャパンテックにて、小平市リサイクルセンターPETボトルの検査立会に行つた。結果は、総合判定結果Aランクで、前回のランクより上がり、ホツとしていた。検査対象になったのは、八月九日出荷分から一定量サンプリングしたもので、それを解体し分別して調べる事となった。内訳は、Bランクが、キャップ付・中身が残っている・異物の混入・その他夾雑物等、Dランクが、テープや塗料が付着・縦潰れやカット

されている等となっており、その他一三項目がAランクであった。今、国内のPETボトルの販売量が五八万トンに対し、回収量は五三万トンと九〇%を越えている。使用済みPETボトルから、新しいボトルを再生するAボトルt oボトルVのリサイクル技術も進化している。直接口に触れるボトルに再生するには、廃PETボトルを粉碎してフレイク状にし、特殊なアルカリ液で洗浄した後、真空高温下で、フレイクに染み込んだ不純物を吸い出す技法が出てきている。再生される製品は、繊維と卵パックが主で、ボトルに戻されるのは一割ほどである。リサイクルの技術の追求は、環境負荷低減に欠かせない。

原油からPET樹脂が出来る過程で一kgあたりの二酸化炭素排出量は一・五七七kgであるのに対し、回収PETボトルから再生PETボトル樹脂が出来る過程では、一kgあたりの二酸化炭素排出量は、〇・五八三kgと、六三%の排出削減につながる。

資源を持たない我が国において、一度使用したPETボトルを適正にリサイクルし、再び使用することで持続可能な資源循環につながる。(加藤)

西東京市の小学生バス見学会

去る八月二十五日(木)、西東京市(協働コミュニティ課)主催、第一六回西東京市消費生活展実行委員会企画運営による小学生のバス見学会に協力させて頂きました。王子にある紙の博物館を見学した後、こちらでご紹介した高砂製紙(株)を見学させて頂きました。私も、現地で合流し、一緒に見学させて頂きました。



お出迎えを頂いた後、集合写真です。

子供たちの安全を最優先に考えて頂き、皆様通常の業務を一時止めて対応して頂きました。まず会議室で遠藤専務のご挨拶と会社紹介のVTRを見ました。高砂製紙(株)は、住宅の壁や天井に使われている石膏ボードの表面の板紙を作



会議室でビデオを見ながら説明を受けました。

っている会社です。皆さんのうちの壁の中にこの工場で作られた紙が使われているのですよ、というお話に、参加者も高砂製紙さんを一気に身近に感じられたようでした。全員ヘルメットを着用し、各グループ別に社員の方が数名ついて頂いて、古紙のストックヤードから、パルパー、抄紙機のパルプを吹き付けている部分、最後の巻取機、製品まで一貫して見学させて頂きました。製紙会社に見学に行くことは多いのですが、なかなかここまで見せて頂けることは少ないですよとお話したところ、担当スタッフの方も保護者の皆様も喜んでいました。最後には紙すき体験まで用意して頂きました。あの大きな機械もこれと同じ原理で紙を漉いているということを開

近で理解するには絶好の機会だと思われました。さらに、最後に頂いた製品原紙を使って作った紙袋の中には、社員の方が用意してくださったお土産も入っていて、子供たちは本当に喜んでいました。保護者を始め大人の皆様には当組合の雑紙回収袋と資料をお渡しし、より一層の分別へのご協力のお願いさせて頂きました。

高砂製紙(株)には、西東京市で回収された古紙も納入しているのので、地元の古紙がどのように生まれ変わって再利用されているのか子供たちもその親も興味深く学ぶことが出来たのではないかと思います。一般の方が製紙会社を見学する機会というのは中々ないと思いますので、この機会に紙のリサイクルに興味を持ってもらえたらと思います。また、私も原料供給元として、市民とのパートナーシップの元、品質の確保と定量納入に努めて参りたいと感じました。

結びになりますが、自ら先頭切って子供たちのお相手をして頂きました遠藤代表取締役専務様、事前の調整から当日の設営まで取り仕切って頂きました梅原部長様始め、高砂製紙(株)の皆様にご心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。(TKO)

小学生のお仕事体験イベント に出店しました

去る八月七日(日)、東久留米市立第七小学校にて開催されたお仕事体験イベント「くるめツザニア(東久留米青年会議所主催)」に紙のリサイクル屋さんとして青年部で出店してきました。出店に当たっては、藤本チェーンの小野塚さん、奥山商店福田さん、三栄サービス鈴木さんにもご協力頂きましたことお礼方々ご報告致します。

このイベントは、今年で三回目になるイベントで、豊洲にある「キッザニア」というお仕事体験が出来る遊園地があるのですが、これの東久留米版です。出店している企業も地元東久留米に関わる事業者ばかりということで、小学生と



開会式の様子。暑い中、200名もの小学生が集まりました!

地元事業者の交流の場ともなっています。当組合も東久留米市の資源回収の委託を受けており、まさにいい機会を頂いたと思い、喜んで参加しました。

さて、開会式を終えた子供たちは、自分が体験したいお仕事ブースを選んで参加します。私たちは、組合業務や本来のお仕事を説明するための紙芝居を見てもらった後、古紙を実際に分別する体験をやってもらいました。



こっちが本業です！
子供たちも真剣に分けてます



まずは紙芝居で組合の仕事
を説明します

そして最後に少しでも楽しんでもらえるよう紙すき体験をやってきました。紙すきが好評だったのか、三〇分×四コマの体験時間は休憩を取る暇のないぐらい多くの子供たちにご来場頂き、うれしい悲鳴を上げながら子供たちと楽しくお仕事体験をさせて頂きました。この中から将来、資源リサイクルの仕事を選んでくれる子がいるといいですね。

(TKO)



楽しく紙すき体験！きれいに絵付けして、思い思いの手作り絵はがきを作っていました。



東村山市集団回収団体連絡会

去る六月四日(土)、東村山市内の集団回収団体連絡会が今年も開催された。当組合から吉浦理事長と紺野専務理事が参加した。市の方から昨年度の実績や諸注意事項の説明があった後、パワーポイントを用いて古紙、古着、アルミ缶の動向や、回収後の資源化ルート、古紙センターのパンフレットを元にした古紙の分別について講演をさせて頂いた。



挨拶をする吉浦理事長

今年は、団体の皆様の意識が高く、分別に関して多くの質問があった。また、当日お配りしたパンフレットやチラシについて、団体の会員様にも配布したいということとで多くの団体から要望を頂き、後日古紙センターより取り寄せた物を発送した。回収量が漸減して



多くの団体にご参加頂いた

いく中で、雑紙類の回収量増加に
関心が高いことが分かった。団体の皆様から要望があれば、出張説明会も開催出来ますので、これから集団回収を始めたいと考えている団体の皆様、もつと雑紙回収を増やしたいと思っている団体の皆様、お気軽にお問い合わせ下さい。

(柿崎)

トイレットペーパー
「フーメラン」
 (65m巻き・100個入り)
 1ケース3,200円(消費税・配達料込み)です。
 ※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。
 小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市
 ご注文は当組合までお願いします。
 TEL : 042-395-9788
 FAX : 042-395-9787

各市破棄物減量等推進審議会 に審議員を派遣しています

当組合では、各市の廃棄物処理に関する諮問機関である廃棄物減量等推進審議会にリサイクル事業者代表として審議員を推薦し派遣しております。

審議会は、市長から委嘱を受けた学識経験者、市内の事業者（一般の事業者及び清掃関連事業者）、市民（環境活動に携わっている市民及び公募により選ばれた市民）が審議員となっており、おおむね十名前後で構成されています。

審議会では、各市の廃棄物処理基本計画の策定や中間見直し、報告について審議を行います。私どもは持続可能な資源循環型社会形成に直接関わる事業者として出席、発言、提案を行っております。

推薦審議員は以下の通り
東大和市：吉浦 高志
東久留米市：紺野 武郎
清瀬市：小畑 和夫
東村山市：紺野 琢生
小平市・西東京市：福田 雄二

行事・行動

【平成二八年六月】
四日：東村山市集団回収団体意

見交換会

- 五日：東大和市環境市民の集い
- 十日：小平RC責任者会議
：青年部会議
- 十一日：東久留米市環境フェスティバル
- 十二日：東久留米市環境フェスティバル
- 十三日：定例理事会
- 十六日：GPS調査（小平市）
：GPS調査（西東京市）
：小平市ごみ減量実行委員会
：古紙センター理事会
- 十八日：日資連総会
- 二〇日：GPS調査（東村山市）
- 二七日：業務委員会
- 二九日：青年部会議
- 三〇日：西東京市廃棄物減量等推進審議会
：財務委員会

【七月】

- 一日：官公需共同受注検査
- 二日：日資連全国大会（大阪大会）
- 三日：日資連全国大会（大阪大会）
- 五〜七日：官公需共同受注検査
- 八日：小平RC責任者会議
- 十一日：定例理事会
- 十三日：官公需共同受注検査
：東村山市（キヤンパ）実行委員会
- 十九日：財務委員会
- 二〇日：小平市廃棄物減量等推進審議会
- 二一日：小平市（キヤンパ）「きゅらぼん」

【八月】

- 二二日：小平RC責任者会議
- 二三日：清瀬市環境・川まつり
：RC暑気払い
- 二五日：西東京市廃棄物減量等推進審議会
：業務委員会
：広報委員会
- 二八日：東大和市廃棄物減量等推進審議会
- 三〇日：組合員家族慰安会

- 二日：東村山市子どもテ実行委員会
：業務委員会
- 三日：西東京市中学生取材
：東村山市業者連絡会議
- 四日：小平市ごみ減量実行委員会
- 五日：小平RC責任者会議
- 七日：東久留米「ぐるめツザニア」
- 九日：吉浦理事長慰労会
- 十一日：定例理事会
：業務委員会
- 一八日：清瀬市廃棄物減量等推進審議会
- 十九日：小平RC（キヤンパ）検査
- 二五日：古紙センター理事会
：西東京・高砂製紙見学
：青年部会議
：広報委員会
- 二九日：市民との交流会（リサイクル施設見学会）
- 三〇日：東久留米市廃棄物減量等推進審議会

編集後記

まずは、直言拝聴にご寄稿頂きました。公益財団法人古紙再生促進センターの岡村専務理事様、有難うございました。ご就任直後のお願いで大変恐縮でしたが、古紙リサイクルの現状を分かりやすく解説頂きありがとうございます。古紙センターの取り組みについても触れておられますが、市民の皆様にも触れてお話をすると、やはり分別が難しいとよく言われます。紙製容器包装の識別マークを製紙原料としてリサイクルできる物に限定して頂くなどの取り組みを是非進めて頂きたいと思っております。

さて、前回号でも触れましたが、雑紙の回収袋を試作致しました。七月の各市リサイクルイベントから、回収袋の中にヴィーナス通信やチラシを入れて配布を始めております。もしかするとこのヴィーナス通信やチラシ類も整理袋から取り出されることなくリサイクルされてしまうのではないかと危惧しておりますが、この編集後記を読んで頂いている皆様はそんなことはなかったと言うことで、感謝を申し上げます。もちろん、ご拝読頂いた後は、きちんとリサイクルに回して頂ければ幸いです。

(TKO)